

# 令和5年度 会派上志の風 行政視察実施報告書

会派名	上志の風
参加委員	◎池田 総一郎    ○飯島 伴典    武田 紗知    中村 知義 矢島昭徳    堀内仁志

◎代表    ○代表代理

## 1 上田市での課題と視察の目的

富山市の全国学力テストにおいて好成績を収めることに繋がっている小中学校での取組について上田市の今後の小中学校の学力向上の参考になるために視察する。富山市の義務教育課程における、教育方針及び教育理念を伺いたい。また富山市は東京大学をはじめとする有名大学の合格率が非常に高い公立高校が多く存在するが、このような成果に繋がる大学受験のために小中高間に連携した取組があるのか。さらには小中学生の通塾率（家庭教師を含む）や各家庭の教育に費やす費用など聞ければ参考にさせていただきたい。

## 2 実施概要

実施日	視察先	富山県富山市
令和5年8月8日（火） 10時00分～11時00分	担当部局	富山市教育委員会 学校教育課
視察事業名	富山市の学力向上の取組について	
	<p>1 視察先の概要</p> <p>[富山市の概要データ] ( )内は上田市の統計</p> <p>面積                            1,241.70 km<sup>2</sup> (552.04 km<sup>2</sup>)</p> <p>人口                             414,102人 (154,615人)</p> <p>財政力指数                     0.83 (0.59)</p> <p>経常収支比率                 89.3 % (85.5%)</p> <p>決算額（歳出）               2,160.6億円 (772.2億円)</p> <p>高齢化率                       29.79 % (30.80 %)</p> <p>後期高齢者比率               15.43 % (16.54 %)</p> <p>行政職員数                    4,073人 (1,281人)</p> <p>議員定数                       38人 (30人)</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>富山市は、日本海側のほぼ中央に位置し、水深1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰まで標高差4,000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、また、古くから「くすりのまち」として全国にその名が知られるように、薬業をはじめとする様々な産業と高度な都市機能、そ</p>	

して、多様な文化と歴史を併せ持つ日本海側有数の都市として発展を続けている。近年では、誰からも「選ばれるまち」を目指し、まずは「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策の中心と捉え、公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住推進、中心市街地の活性化などに取組む。さらに ICT 等の技術を活用としたスマートシティを構築するほか、これらをコンパクトシティ政策と融合することで市民生活の質や利便性の向上を目指す市として有名である。

### 3. 視察事項について

#### ◆富山市の小中学校学力向上の取組について

##### (1) 富山市学校教育指導方針の作成及び配布

「富山市学校教育指導方針」を作成し配布する。内容的には、学校教育の課題を明確に把握し、富山市教育目的の具現化に向けた学習指導及び生徒指導、目的や課題等に対する方策等を周知することで、義務教育水準の維持向上を図るものである。

##### (2) 富山市独自の学力調査の実施（平成 23 年度より）について

###### [目的]

- ・各小中学校が、中学 1 年生、及び中学 3 年生における学力の定着状況を実証データに基づき把握し、学習指導の改善・充実に生かす。
- ・すべての設問を富山市の教育委員会で作成し、富山市自身で設問趣旨に生徒がいかに関与できているか把握する。
- ・生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組む。

###### [内容]

###### ◇中 1 調査

- ・調査教科…… 5 教科（国語、社会、算数、理科、英語）
- ・調査時期…… 4 月

###### ◇中 3 調査

- ・調査教科…… 5 教科（国語、社会、数学、理科、英語）
- ・調査時期…… 12 月

##### (3) 小中連携を中心とした学力向上推進事業の実施について

###### ・趣旨

教育の指導力向上を目指して、実践研究拠点校（中学校区）を指定し、児童生徒の「確かな学力」の育成のための研究を実践するとともに、研究成果を振り返り研修会を通して市内小中学校に普及する。

###### ・取組

- ① それぞれの学校で学力向上に向けた課題を明らかにする。
- ② それぞれの中学校区で学力向上のための方策を立てて取組む。
- ③ 市教委主催の研修会を開催（各校の実践発表・講師を招いた講習会）する。

・「富山市学校教育指導方針」に効果等を盛り込む

#### (4) 成果と課題

##### [成果]

・実践研究拠点校（平成23年より実施）について

令和5年度実践拠点校……2中学校区（大沢野中学校区、八尾中学校区）

2中学校、6小学校で実施

・学力向上を、9年間を見通した学習規律や指導法の取組を実施・検証したことで、情報や実践を共有することができた。

・児童生徒理解や指導に対する認識の共通化が図られ、小中学校間の信頼が高まった。小中学校が互いの状況を理解することで、それぞれの取組むべきことが見えてきた。

・研究拠点校になったことで、学校全体でベクトルを同じにして取組もうとする意識が強まった。また、教務主任同士ではなく、担任間での研修、情報交換を行うことができ、担任の指導の幅が広まった。

・小学校から中学校への接続に関して、学習環境や学習方法の継続等が図られており、子供にとっての教育環境が整っている。

##### [課題]

・小学校6年から中学校1年のつながりに重きを置きがちだが、9年間でどのように児童生徒を育てるかという全体構想や発達段階に応じた目標の設定が必要である。

・今後も、互見授業や合同研修会等、連携や交流を継続していくには、連絡調整を密にしていく必要がある。特に、中学校区が広い、小学校から複数の中学校へ進学（選択制）する地域であるなどの場合の調整が課題となる。

#### 4. 全国学力・学習状況調査の活用について

##### (1) 結果の公表について

・富山市の調査結果を市民とともに受け止め、現状に即した教育に努めるため、小中学校ごとに、全体に関する調査結果及び概要を公表する。

・各学校は、当該学年の保護者等に渡して、全体の結果の概要を説明する。

##### (2) 調査結果の分析について

・教育委員会及び学校が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図るため、教科に関する調査や質問紙調査の結果を分析し、明らかになったことや今後の課題などを示した指導資料「全国学力・学習状況調査の結果について」を8月下旬に全小中学校に配布する。

##### (3) 各校への指導について

・各校に配布した指導資料の内当面容について、定例校（園）長会でも説明し、各校での具体的な指導改善を促している。

・各校では、調査の結果を分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全職員で共有し、改善策を講じ、実践している。

#### 5. 通学学校訪問研修会の隔年実施について

##### 趣旨

・各学校（園）の教育目標実現のため、富山市教育委員会、富山県教育委員会の指導方針に即し、学校（園）経営、教育指導及び研修等に関して指導・助言し、当面する課題を中心に解明を図り、教育実践の効果を高める。

#### 6. 「授業のいろは」の作成

##### 目的

教員が授業を行う際の参考となる基本的な事柄をまとめ、初任者に配布している。各学校では、全教員が基礎を確実に身につけ、よりよい授業や指導を実践できるよう、校内研修等で活用する。

#### 7. 教職員の研修について

##### （1）とやま塾

###### ①趣旨

中堅教員が、自主研修の一環として「とやま教師塾」に参加することを通じて、教員としての資質向上と幅広い人間性の形成を図る。

###### ②研修対象者

概ね30代の受講希望者。

###### ④ 研修内容

「富山市長、教育長の講話」「富山のまぢめぐり」「ガラス作品制作」等、「自分を耕し、自分を伸ばす」をテーマとした研修（年間8回）。

##### （2）とやま技塾

###### ①趣旨

・先輩教師が長年の実践を通して培ってきた教育諸活動における熟練の技を若手教師伝えることで、教育指導向上を図る。

###### ②研修対象者

概ね40代の受講希望者。

###### ③研修内容

「主体的な子どもを育てる教師の接し方」「チームで解決！生徒指導」等、授業や生徒指導等の中心的な方法とその技術について、演習、体験を中心とした研修（年間10回）。

##### （3）主体的な学び研修会

###### ①趣旨

・富山市の重点項目である「主体性のある子どもの育成」に向けて、円滑に教育活動を行うことができるよう教員一人一人の指導力の向上を図る。

###### ②受講希望者

受講希望者。

	<p>③研修内容 講演やグループワーク、公開授業等をとおして主体的な学びについて研修を深め、それが具現化するよう努めた授業をさらに公開し合う。(年間11回、うち公開授業7回)。</p> <p>8. その他の事業</p> <p>(1) 理科教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における理科の観察・実験を支援する補助員50名を42校に配置し、児童の科学的思考力を育む環境を整備する。</li> </ul> <p>(2) 外国語活動の充実</p> <p>[外国語指導助手配置授業]</p> <p>ALTが、中学校の全学級、小学校3～6年生の全学級を中心に、英語科及び外国語活動の授業でティーム・ティーチングを行う。</p> <p>[小学校外国語活動充実事業]</p> <p>支援講師2名(日本人)を小学校4区域の拠点校(令和5年度5校)に配置する。支援講師は、拠点校を1日1校巡回し(5時間勤務)外国語の授業に対して支援を行う。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が一人で授業を行う際の展開について。</li> <li>・校内研修会の講師。</li> <li>・担任との相談、外国語の授業に対する悩みのサポート等。</li> </ul>
<p>考 察</p> <p>(まとめ: 市 政に活か せ ると思わ れ る事項 等)</p>	<p>1 富山市の教育の一番の特徴は常に富山県を意識して事業を展開している点である。したがって全国学力テスト等についても全ての教科で県の平均を常に意識している46万人都市としてのプライドを感じさせられた。富山市は義務教育だけでなく公立高校には富山中部高校は、年間東京大学に25人ほど合格し、国公立大学医学部医学科にも50人近くも合格している。その礎となるのは、やはり義務教育の色々な学力向上のための事業の賜物。そのような功績は、富山市の「強さ」を感じさせ、人口減少の現在においても魅力を感じるところである。</p> <p>2. 富山市独自の学力テストは非常に注目すべき点である。中3の12月に実施され、全て富山市オリジナルの設問である。生徒にとってこのテストは受験前の最終テストであり、受験校に関しても参考になるし、自分の弱点部分の最終確認ともなる。さらには、市としてもほぼ中3終了時の受験生の実力と確認でき、学力到達度調査として本当に有効なテストである。上田市も参考になると思う。</p> <p>3. 教員の研修についてであるが、教員の質的向上のため精神面、技術面と極め細やかに実施している。内容的には、視察してないので不明であるが、生徒の教育はやはり最後は人であり、すなわち先生の資質にかかってくる。より多くの研修を実施し、生徒の学力を向上させるために年間定期的に集まり、生徒にわかり易い教え方を研究することは非常に有益な事業であると思う。</p>



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと